

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'91 秋

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11  
婦選会館内 T151

振替 東京九一 九一八九一

発行 一九九一年九月二八日

まだまだ

きびしい共修への道

芦谷 薫

共修をすすめるために取り組まねばならぬことはまだ山積している。

現時点での共修実現へのネックを整理して対策を考えてみたい。

(1) 国の定数法の問題が何としても大きい。是非とも定数枠外という措置をとるよう決定させること。それは一学級あたりの生徒数減という教育条件の引き上げという点でも、国の施策として重点項目にノ

(2) 地方自治体は国の定めた範囲以上をやらない点に加え、生徒数の激減期をむかえる今後、激化する一方の受験競争に伴う公立私立の生徒勧誘合戦——特徴を持たせたカリキュ

ラム作りやコース制、入試制度の変更、学校五日制導入などが複雑にからみ合って、家庭科共修の意味が見えなくなってしまう実情。各学校でたったひとり(または全くいない)の家庭科教師がどう働けるのか。教員組合での取り組みも重要なポイント。

(3) 家庭科共修を願う父母でも、とりわけ高校は学校にかかわる機会が、小学、中学に比べ少くなることもあって、文部省が決めたら即共修が実現するものと考えがち。また多くの父母が、国が共修を決定するまでの経緯や、それにむけての市民運動の基盤にある差別撤廃条約や、子どもや社会の問題点などについて充分に理解されていない点。

これらのことを考え、個人でできること、地域でできること、運動体として共にやるべきこと等、それぞれ力を合わせてやって行かねばと思う。

もくじ

まだまだきびしい共修への道	(1)
やる気があるの? 家庭科指導主事	(2)
指導主事アンケート質問紙	(3)
男子校の教師に家庭科の講演	(4)
母親大会報告	(5)
西暦二〇〇〇年に向けての全国会議	(6)
他団体の集会から	(6)
家教連第26回夏季研究集会	(6)
We 夏季フォーラム	(6)
男子の家庭科リーフ鹿児島で大活躍	(7)
世話人会報告	(7)
国際婦人年連絡会報告	(8)
でこにしたい行動計画	(9)
男女共修家庭科、大阪では	(10)
男女共修家庭科、東京では	(11)
文部省のうごきから	(12)

各自治体の教委や議会に対して皆さんも働きかけて下さい。特に家庭科教員の早期枠外採用、施設・設備の拡充のための予算を強く要求して行きましょう。わからないことは世話人にご相談ください。

## やる気があるの？

### 家庭科指導主事

半田たつ子

二年後から中学で、三年後から高校で、男女共学の家庭科は、既に秒読みの態勢に入っています。この時期、各都道府県教育委員会はどんな準備をしているのか、互いに情報を交換しあえたら、きっと参考になり、弾みもつくだらう。これが、家庭科指導主事にアンケートをお願いしてみたい理由でした。

六月十日、政令指定都市も含めて60通余りを発送。七月十日の〆切りまでにどんな回答が寄せられるか期待していました。ところがところが……。もどってきたのは僅か五通。

新潟、山口、島根、北海道、長野（到着順）この会報は、アンケートのまとめに大幅なページを割く予定でしたが、残念です。しかも山口からは、家庭科指導主事は一人で看護も担当しているという返事だけ。他の項は担当の課に問いあわせなければならぬ。必要なら公文書で書いてくれと、実質的な回答になっていません。従って分かったのは四県だけです。

新潟県には家庭科指導主事が五人。回答し

た方は小・中担当。北海道は四人で回答者は高校、長野は教育事務所に小・中担当の方が二人いて、回答者は本庁で高校担当、島根は一人で小・中・高を担当しています。

△中学校に関して▽

●新潟、長野ともに免許外で教えている教師が相当たくさんいます。両県とも時間講師の制度はありません。

●領域の選択、学習計画作成、題材選定について指導助言（新潟）、男女差より個人差を考慮するよう指導（長野）

●選択領域を男女別学習にならないよう指導助言している？ いいえ（新潟）はい（長野）

●技術と家庭のバランスがとれるよう指導助言している？ はい（新潟）いいえ（長野）

●「家庭生活」領域の研修の場を設けている？ いいえ（新潟）はい（長野）

●その他、免許外教員の実技指導（新潟）評価・評定方法の検討（長野）

△高等学校に関して▽

●免許外で教えている人は三県ともゼロ

●時間講師の制度あり、島根28人、北海道約90人、長野25人

●男女必修家庭科に向けて、三県とも教育課程研究会を設置している。その内容は？

島根―教員研修、教員確保、施設設備充実

北海道―教員確保、施設設備充実

長野―教育課程研究、手引き作成、教員研修、教員確保、施設設備充実

その構成は？ 校長2、教頭2、教務主任2、家庭科教員3、指導主事（島根）

●なるべく家庭一般を、生活一般2単位を他教科で代替しないように（島根）

どの科目であれ、男女別の履修させないよう（島根、北海道）

●妨げとなるのは

家庭科教師不足、他教科教師の認識不足、校内の調整困難（三道県とも）

施設設備不足、受験態勢（島根・北海道）

教員研修不足、校長の認識不足、親・地域の保守性（島根）

家庭科教師の力量不足、性別分担意識（北海道）

△中・高で男女必修で家庭科を学ぶことは▽

●当然のこと（長野）

●まだまだ前途困難だが全力で臨む（島根）

●社会の期待にこたえられるよう、家庭科教師の研鑽も大切（北海道）

四道県の方々には感謝しつつも、そんなに面倒ではないアンケートに一割にみたない回答率とは？ と暗い気分になりました。

左の頁は質問紙を縮小したものです。

該当するものに○を付け

( ) には言葉で御記入下さい

1 貴県（都道府市）教育委員会には、家庭科担当指導主事が何人いらっしゃいますか  
また担当の学校種別は？

- (1) 1人（小中高担当）その他（ ） 担当  
(2) 2人（小中&高担当）（幼小&中高担当）その他（ ） & 担当  
(3) 2人以上（人）（ ） & 担当  
(4) 家庭科担当はいない、他教科（ ）と兼任している  
2 あなたが担当されている学校種別は？  
幼・小・中・高・その他（ ）

3 中学校技術・家庭を担当されている方にお尋ねします

(1) あなたの自治体で、家庭科を教えている教師の数は？

(2) 技術科

(3) (1)のうち、免許外で教えている教師の数は？

(4) 時間講師の制度を導入していますか？

「はい」の場合、その数は？

(5) 93年度から、新学習指導要領による授業が始まりますが、あなたの自治体では男女共学の技術・家庭科のために、どんな対策をすすめていらっしゃいますか？  
また、あなたは中学校の現場に、どのような指導助言をなさっていますか？

a対策（ ）

h選択領域について、男女別の領域を学習することがないように指導助言している

c技術と家庭のバランスがとれるように、指導助言している

d新領域「家庭生活」についての研修の場を設定している

「はい」の場合、どのような方法か、具体的に記して下さい

( )

eその他、あなたがしたいことを、具体的に記して下さい

( )

4 高校家庭科を担当されている方にお尋ねします

(1) あなたの自治体で家庭科を教えている教師の数は？

(2) そのうち免許外で教えている教師の数は？

(3) 時間講師の制度を導入していますか？

「はい」の場合、その数は？

(4) 94年度から新学習指導要領による授業が始まりますが、あなたの自治体では、男女必修の家庭科のために、どんな対策をすすめていますか？ また、あなたは、高校の現場にどのような指導助言をなさっていますか？

a教育課程研究会などを設けている

「はい」の場合、その内容は―教育課程の研究・指導の手引き作成・教員の研修・教員の確保・施設設備の充実・その他（ ）

その構成は（ ）

bその他の対策（ ）

c家庭一般・生活一般・生活技術のうち、なるべく家庭一般を男女共学にと指導助言している

dどの科目であれ、男女別々の科目を履修させることがないように指導助言している

e生活一般の後半2単位を他教科で代替しないように指導助言している

f男子校や女子校が極めて少数の高校に対して、具体的な相談に乗っている

gその他（ ）

5 中学・高校を通して、家庭科の男女必修をスムーズに促す妨げとなるものは何でしょうか？ いくつでも○をつけて下さい

施設設備の不足、家庭科教師の不足、教員研修の不足、学習指導要領の不備、

家庭科教師の力量不足、他教科教師の認識不足、校長の認識不足、校内の調整困難、親・地域の保守性、受験態勢、性別分担意識、家庭科のカリキュラム、教育内容、教材研究の立遅れ、指導方法の不備、その他、御自由にあげて下さい（ ）

6 中学・高校で男女が必修で家庭科を学ぶことに因って、あなたの御意見を御自由に

お書き下さい（ ）

御協力ありがとうございました。あなたの所属をお知らせ下さい

( ) 教育委員会 ( )

## 男子校の教師に、 家庭科の講演

和田 典子

さる4月6日の「男子の家庭科」学習交流会の出席校から招かれて、早稲田大学附属の二校で、先生方を対象にして、家庭科共修についてお話をする機会に恵まれました。

両校とも、志願者が殺倒するエリート高校ですが、教務が中心になって、かねてから家庭科問題に注目し、実施年の94年にむけて検討がすすめられてきたといえます。

しかし、教員はほぼ全員が男性で高校での家庭科経験はゼロな上、必修自体にも抵抗があり、不たしかな家庭科のイメージでは、論議もすすまないという実状がありました。

そこでとも角、関係の人から解説してもらい、疑問点をあきらかにしたい、というのが今回の企画理由だとききました。

### △本庄高等学院の場合▽

はじめに訪問したのは埼玉県本庄市にある本庄高等学院でした(5・22)。学院はJR高崎線本庄駅から徒歩約15分の丘陵にあり、全

国各地から集まる生徒のため「ホームステイ」の施設も整っているとのこと。

家庭科必修の経過、教科の内容、施設・設備の条件、教員配置の問題などについて説明せよ、というのが注文でしたから「会」のリーフやパンフの中から適当なものを持参し、資料を引用しながら情報と、筆者の見解をのべました。学院側の参加者は院長をはじめ約30名の先生方で、疑問の大半はとけたようでした。寄宿生が6割もいるため、衣食住についての基礎知識の要求も大きく、実践例の紹介から家庭科の全容もつかめたようでした。「教育課程編成にむけて大いにはずみがついた」と風間益人教務主任から礼状がとどきました。

しかし、問題は施設や教員の増員といった予算要求が、大学側に受け入れられるかどうか、でこれが難関とのこと、また、ゆくゆくは、女子の入学・共学制も考えたいとの意向もきき、明るい見通しをいだきながら退出しました。

### △早大高等学院(練馬校)の場合▽

6・13、約2時間半の予定で伺いました。参加者は「教育課程委員」を主とする約20名の先生方ということでしたが、会議の出席者は約35名でした。

本庄学院と、ほぼ同じ内容について説明し

たあと、多くの先生から相ついで発言があり、前回とは異った空気でしたが、都心の有名高校の先生らしい自負心にみちた活気のある本音に接することができて、愉快でした。

受験戦争に勝ちぬいてきた都会の「自慢の息子」たちを集めた大規模校、そこでの緊張した師弟関係や、その渦中で全力投球されている先生方のご苦労を推しはかりながら、意見を交流しました。印象的な発言を二、三紹介しましょう。

① 頭のよい生徒たちなので、ハイレベルの内容でないと満足しないが、家庭科(のような通俗的な?)の授業についていけないか。

② 家族や女性の意識の流動がはげしく、難かしい家庭や家族について、どんな教育をするつもりか。

③ 男女は異質であり特性を生かし合う現状を支持しているので、同一の教育には反対

④ 男子の生活的自立がすすめば、結婚率はいっそうさがるので困るのではないか。

⑤ 「離婚」や「有島の情死」にもえた経験があるので、ナマの問題にふみこむ授業は成功すると思うので賛成。

などで、大いに参考になりました。「会」として、もっとこうした意見をきく機会を持ちたいと思います。

## 第三十七回母親大会報告

### 二十分科会 男女平等教育

#### ―それぞれの自立のために―

京都 森 幸枝

当分科会は、京都大学の教室に全国から五十余名の参加者を迎え、折からのやかましい蝉しぐれに負けない活発な討論となった。

先ず助言講師の京都橘女子大学の安田雅子先生から、今日の男女差別の実態について、ごく日常的な会話の中にもまだまだ沢山残されていること、教科書では低学年でのさし絵をはじめ国語、社会、道徳、公民等にステレオタイプの男子・女子像や性の違いの強調がみられること、職場での差別の現状、そして家庭科教育の男女共学に至るまでの歴史等の話があり、現在差別解消のために法的には憲法24条や女子差別撤廃条約に依拠出来るが、私達はそれぞれの自立のために何をどうしていけばよいのかを話し合おうとのことだった。参加者は、有職者退職者が殆どで、とくに小・中・高の家庭科の担当者が多かった。

午前中の自由な発言の中では、小学校での男女混合名簿について、先生方の討論や納得なしに行政の一方的な形式的平等の押しつけがあるとの報告や、しかし男女平等教育のあり方として基本的には大切との意見。日常用語を余りつきつめていくと言葉に話が出来なくなる、否、言葉はやはり重要であり意識して平等語を使うことの必要性和実例など。また中・高校生女子の甘えや無自覚も語られた。

さらに参加者自らの家庭の中での妻の立場から、まだまだ残る不自由さの訴えも多く出され、その中でのがんばり(夫の自立への援助も強制?)が披露されて、分科会のサブタイトルに惹かれての参加者の多いことが判った。それぞれの自立が、自覚的な参加者層にしていまだどんなに大変か、それ丈に男女平等教育への期待が大きくふくらむのである。そして、新しい家庭科への疑念も多く出されたので、昼食時に本会の「すすめましょう男子の家庭科」を全員に配布出来たのはとてもタイムリーであった。

午後は、左の討議の柱を立てて話を進めた。

一、男女平等を妨げている状況について

① 学校教育 ② 職場 ③ 家庭

二、それぞれの自立のため何をすればよいか

参加者の多くが四苦八苦して夫の自立や男

の子に生活力をと努力している中で、それがなかなか出来ない背景に長時間労働や受験体制(高校家庭科の共学実施が危ない)があり、女子も含めての職場の過酷な労働条件、管理体制が語られた。そして、子ども達の幼稚化や思いやりのなさを克服するためには、考えない子どもを作る学習指導要領を補う力の必要性を再確認した。さらに、母性が育っていない母親や心の病を持つ乳幼児の増加等暗い話も出たが、わが子夫婦の共生に学んで夫が変りつつあるという明るい報告もあった。

また、小・中家庭科の「家庭生活」分野の扱いの大切さ、特定の保守的非現実的な家庭像が押しつけられる危険性の指摘があった。最後に、それぞれの自立をめざして、●家庭において自分の生き方を貫く ●職場での長時間労働の解消、受験体制改善への取り組みや、公教育での男女平等教育を進める取り組みに努める ●新学習指導要領や子どもの権利条約について学び、その白紙撤回や批准に向けて取り組む、等を申し合わせた。

道は遠い様でも、長い目でみれば男女差別の解消に向けて、歴史は確実に歩みを進めていることに展望をもちたい。

## 西暦二〇〇〇年に

### 向けての全国会議

—総理府主催・六月十四日—

この会議のサブタイトルが「改定新国内行動計画の推進」だったので、その中身に関する説明及び意見交換を期待して参加したが、その部分はシンポジウムのコーディネーターの有馬真喜子さんがシンポジウムに入る前に、要点を非常にわかりやすく披露するにとどまり、利谷信義、下村満子、A・クダート、三氏のパネリストによる話が中心であった。

今回の婦人問題企画推進有識者会議意見の起草委員長代理であった利谷信義氏は、「女子差別撤廃条約」が慣行のレベルまで変えようという画期的なものであったのに日本の家族法が改正にならなかったのは、一九四七年の全面改正で先取性と柔軟性を持たせたからである。この法は白紙条項を多くもっており、当事者にまかせるという姿勢だから、あらそいが表面化しないので実質力関係でことがすすんでいくために不平等が起ると論じた。氏は平等推進は法制度の整備よりも、我々の自助努力の方が大事といったかったのだろうか。

(石川 由紀)

## 男子の家庭科リーフ 鹿児島で大活躍

8・4・5、鹿児島県高教組教育研究講座がひらかれ約二〇〇名が参加しました。会場は、ホテル林田温泉でひらかれた初日の全体会で「会」の男子家庭科のリーフが、参加者全員に配布されて話題をよびました。家庭科分科会の世話人(稲次さん等)が提唱して、この日のために全員分をとりよせて活用したとのこと。作成にあたった者たちにとっては、何より嬉しいニュースでした。

翌日の家庭科分科会には約25名が参加し、現場状況を交流し合ったり「いま、なぜ共修か」についての基本理念を確認したりしました。

尚、分科会解散後、サークルのメンバーはさらに一泊して、鹿児島県の共修家庭科の内容試案づくりにとりくむとのことでした。

(和田 典子)

## 世話人会報告

△六月二十二日▽

出席者五人と少なくさびしい世話人会でした。ただアメリカの大学院生で日本のフェミ

## 他団体の集会から

### 家教連第26回夏季研究集会

去る7月31日から8月1日にかけて、筑波でもたれた夏季集会のテーマは「男女がともに学ぶ家庭科——何をどう教える——」でした。記念講演は「平和と子どもの人権」として住井すえ氏により行われ、住井氏の「私の年齢は皆さんよりずっと年上だが、皆さんより新しい考え方をしているかもしれない」と憲法をながしるにしている現況にもっと敏感に感覚を研ぎ澄まさないといけないことを警告されました。

また「文化とはいのちを守ること、生活を守ることに、家庭科はまさに人間の生活を豊かにし、生命を守るものできわめて文化的な学問」と励まされました。

分科会は、小、中、高、障害児と分かれ、提案されたリポートは合計40本にのぼりました。特に新教育課程が導入されたり、間近に控えたりの中で、どの分科会も教科書の検討が行われました。

全国的に中、高ともに男女共学家庭科の実践が進んでいることもわかり、自信をもって

ニズムについて論文を書きたいというエミー・ボロボイさんが参加、おもしろい話もありました。リーフ完成。

母親大会のだんどり、夏の各集会に向けての準備などを打ち合わせ、文部省への働きかけを話しあいました。国内行動計画・とうきようプランにも、きちんと家庭科男女共学が位置づいているこの際、文部省のやる気を問いただしたい、ということでした。特に、文部省主催の実技研修が、全国を五ブロックに分けて六日間ずつ開催されますが、家庭科新科目についてのレクチャーはたった一時間。あと丸五日間は、電気・電子機器の原理と構造、コンピュータの機能と操作、ホームエレクトロニクスについて、ソフトウェアによる操作……などであることについて、を問おうということになり、文部省との日時の交渉を、和田さんをお願いすることにしました。

(半田たつ子)

△七月二十日▽

●母親大会・家庭科関係の各集会に向けてのリーフレット配布について、具体的な段取りをしました。

●家庭科の指導主事に向けて行なったアンケートについて半田さんから報告。回答の少なさに、一同唖然。

●文部省交渉の件でも、担当者が多忙で九月以降でないと時間がとれないと言われ(交渉

取り組みを進めていきたいと思いました。

(斎藤 弘子)

## We 夏季フォーラム

We 夏季フォーラムは、八月二日から四月まで、東京・八王子の大学セミナーハウスで開かれました。今年のテーマは「出会いの歴史をつくるII—違いとつきあう—」です。家庭科にかかわっては、「どうすすめる、どうすすませる家庭科男女共学」「こんな家庭科をやってみよう」と二分会と、「家庭科スクランブルトーク」の交流会が持たれました。昨年ツアーを組んで北欧の高齢者福祉を視察した人たちが、家庭科の教材として作ったスライドも披露されました。「どうすすめる」では家庭科男女共学という当たり前のことが、なぜ進捗しないのかと親から疑問が出、「こんな家庭科」では他教科の教師も加わり、アジアの民衆の生活と結びついたパンツや印度のサリーなど実物を着てみて、気候・風土、人間のくらしと衣生活を着てみて、教材への視野を広げました。「スクランブル」では、家庭科教師でない人の司会で、あらゆる問題を交叉しあい今後深めたいテーマを、それぞれがつかみました。

(半田たつ子)

の和田さんより) 暫く見送りになりました。

●芦谷さんから、家庭科の男女共修に向けて文書質問をしたことについてくわしい話があり、自治体や議会に働きかけることが今こそ必要だということと一致し、各地で行動してもらいたいね、という話になりました。

この他、秋号編集のこと、会費未納者の整理、「男子の家庭科」のリーフの増刷、などについて話し合いました。

(持田 ナミ)

△八月二十四日▽

●秋の各集会に向けて9月2日の「高齢化社会をよくする女性の会」の催しに梶谷、中嶋さんも出演するので、「家庭科は共修にならない?—リーフ」を会場で配るようにする。榎本さん出席。などがきまりました。秋は教研などが各地にあるので、男子校向けのリーフを配布したい。できる人は事務局まで。

●国際家庭年に向けて—連絡会などの反応をみる。家庭の問題、婦人問題という男は関心がない。男子に関心を持たせるには、などの発言にとどまりました。

●国会に持っていく要請文について—原案は和田さん、9月28日の世話人会で検討することになりました。

●その他—会の二〇周年記念として、会報の合本をつくるのはどうか、などの発言がありました。

(持田 ナミ)

## 国際婦人年 連絡会報告

和田 典子

### 一、一九九一年度総会

6・8午後開かれ、中村紀伊世話人より、総理府の婦人問題有識者会議で民間の意見を主張しかなり成果があった。共同参加は「参画」と改定、推進本部の機構強化についても「検討委」がつくられることが決ったなどの報告をうけました。つづいて、会計報告を承認したあと、五つの各委員会より情勢報告と活動方針が出されました。

教育・マスメディア委、新年度の計画は

- (1)「子どもの権利条約」の批准
  - (2)教科書の見直し
  - (3)マスメディアの内容に対する申し入れ
  - (4)「生涯学習」「中教審答申」行政の動向を注視する
- の四項目ときまりました。
- 尚、加盟50団体の組織・担当者の名簿が配布され「会」の窓口はひきつづいて和田が担当することになりました。

### 二、西暦二〇〇〇年に向けての新国内行動計画（第一次改定）について

5・30発表の右記内容のヒアリングを堀内光子担当室長からうけ、この後「要望」を提出することを決めました。

要望書は「婦人問題企画推進本部機構の充実、強化促進について」で、①明確な権限をもつための法的、制度的な位置づけを明文化すること、②本部機能の一つとして、オンブスマンシステムを導入することなどで、右文書は6・20松浦三知子世話人、大槻勲子（有権者同盟）山口みつ子（事務局長）大関清子書記らが担当室長に手渡ししました。

### 三、「子どもの権利条約」学習会

6・28、午後1時〜2時参議院議員会館にて、喜多明人氏（立正大学教授）から「条約をどう受けとめるか」を中心に講義をききました。

### 四、世界の人口問題について

来日中の国連人口基金事務局長、ナフィス・サディク女史より、開発途上国の深刻な人口増加をめぐる問題状況と打開策についての講演をききました。（6・28 午後2時〜）

五、統一地方選挙にみる女性の投票行動について

政策決定参加委では、7・10、佐竹寛中央

大教授を招いて上記の講演会をひらきました。今次の特徴は、①無競争と相乗りの増加、②投票率の全体的低下、③ねじれ現象のほか、女性の候補者数はふえたが都市部では無党派が多いなどと指摘。今後の課題は「倫理的個人主義」層をどうふやすかであると主張。

また、小選挙区制は「一党支配をもたらす危険が大きく、対米従属もいっそう強まる」と警告しました。

政策決定参加委では、7・24、政治改革・選挙制度改革と女性の政治参加について、さらに検討を行いました。

### 六、教育・マスメディア、家族・福祉合同委員会

「子どもの権利条約」の学習会をうけて、関係の深い両委員会は合同で、今後の活動計画を協議しました。（7・10）

その結果「条約」と国内法との関係について再度学習を深めることになり、8・29午後講師を招いて話し合う予定をたてました。

また、教育の委員会では行動計画にそって「差別撤廃条約」にてらしての「教科書の見直し」もすることになり、日弁連の意見書「教科書における男女平等」や、伊東良徳はか四氏の著書「教科書の中の男女差別」（明石書店）を予習するなど準備をすすめています。

## てこにしたい行動計画

梶谷 典子

### 新国内行動計画

夏号で簡単にお知らせしましたように、五月に発表された「西暦二〇〇〇年に向けての新国内行動計画」には、はっきりと家庭科のことが書かれています。

計画に書かれている施策は16項目、そのうちの3番目が「学校教育の充実と社会教育の推進」で、学校教育と社会教育について3項目ずつの具体的施策があげられています。

学校教育の部分のコピーは夏号に同封しましたが、ア、イ、ウ、3項目のうちのひとつ「イ」が家庭科の男女必修のことで、「趣旨の徹底」「教員研修の充実」「施設や設備の整備・充実」等、私たちが一番強く要求したいことがしっかり入っています。

国としては、家庭科の問題を決して軽視してはいけません。文部省にぜひ積極的にやってほしいと思います。

なお、家庭科教育の内容に関係がある項目としては、学校教育とは別に「母性の社会的機能としての重要性についての認識の浸透」「性の尊重についての認識の浸透と諸施策の推進」があり、「消費者教育」「環境教育」については「地域社会及び家庭生活における男女共同参画の推進」という項目の中に書かれています。その項目では、「家事、育児、介護等に対する男女の共同参画の促進」「父親の家庭教育参加」にも触れています。

### とうきょうプラン

ちょっと旧聞になりますが、3月には東京都の新しい行動計画「男女平等推進とうきょうプラン」が発表されています。

教育については「『性差別をしない、なくす、平等を創る』視点が貫かれた教育・学習がなされることが期待されています」「家庭科は、男女共に真に自立するために、将来の家庭生活の準備として重要です」と書かれ、「中学校『技術・家庭』の男女共通履修及び高等学校『家庭』の男女必修の推進」が施策のひとつとしてあげられています。しかし具体的な事業としては「学習内容・指導方法の検討及び充実」があるだけで、条件整備に

については書かれていません。それに、これまででは「男女共修」ということばを使っていたのに、今度は「男女必修」という表現になったのがちょっとひっかかるところです。注目したいのは都から文部省への要望で、次のように書かれています。

「男女平等教育の視点に立って、中学校の『技術・家庭』、高等学校の『家庭』の履修が、新しい学習指導要領に沿って実施できるよう条件の整備を図られたい」

条件整備については都としても積極的にやっけてほしいものですが、国に要求することも必要ですからこの要望には大賛成です。特に「男女平等教育の視点に立って」という表現に嬉しくなりました。

私の知るかぎり、文部省は「男女平等教育」ということについては極めて消極的で、このことばを使ったこともないようです。家庭科の男女必修をきめるにあたっても、女子差別撤廃条約の批准に関連して男女平等推進のために行うのだということをはっきり言わないようにして来ました。こうした姿勢は何とか改めてほしいものです。

「男女平等教育の視点に立って」「条件の整備を図る」ように、会、としても文部省に強く働きかけて行きたいと思っています。

## 男女共修家庭科 大阪では

村上 昌子

大阪では、御承知のように10年以上前に西成高校が普通科で4単位全面共学を実現させました。その後、定時制や女子の圧倒的に多い商業科での共学や、3年生の選択科目での共学や男子のみの選択家庭一般等は少しずつ増えてきましたが、普通科での家庭一般4単位全面共学は、6年前に松原高校、そして今年長吉高校と、遅々とした歩みでしかありません。そしてその3校は、人権教育に取り組む学校であるところに特徴があるといえます。組合運動でも、婦人部のみの取り組みが、全員の課題と位置づき、ようやく今それぞれの組合が組合員の目に入る形で進みつつあります。

しかし私たち家庭科教師の組織である家庭科研究会では、委員が輪番の一年交代ということもあって、十年一日のごとく行事をこなす仕事に追われ、またブロック単位の研究活動や、将来構想委員会も、教科内容の検討などをしているのですが、いずれも各校での共学実現のための力とはなっていないでした。また毎年研究会として上申書をまとめ、府教委に提出してきましたが、実習助手配置や講座人数・持ち時間の軽減、教員の複数配置

をお願いするという、これも十年一日の、お願い、できています。

昨年度、構想委員会では、意志一致できるメンバーが半数を占めたこともあり、●三科目の比較 ●上申書提出時の府教委へのアタック ●府教委・指導主事、文部省の役立っ発言を集め資料づくり ●会員対象の学習交流会 ●研究班の組織づくり、と矢張り早やに一年間で動いてきました。指導主事や校長協会の家庭科理事、学教審委員等ともコンタクトをとることも努めました。

今年度、領域別の8つの研究班が発足し、構想委員会は、各校で4単位位置づけるために役立つ資料をまとめ、今年末にはその第一弾を、来年度中には具体的な教案も含む資料を完成させ、'93年初めから実践交流し、報告書をまとめる方向で進んでいます。

また、工業高校あてにアンケートを送ることや、移行期に共学実現できそうな学校のバックアップを考えていますが「移行期は男子体育11単位」という府の方針がネックになって前進できません。保健・体育科からの働きかけや、生徒数急減による人員減対策からかかっていると思われまふ。'94年から各校一斉にはじまるより、何校かでも先にスタートできれば誰にとっても都合がいいと思えるのに、指導主事は、あせるな、'94年からだといまふ。各ブロックに一校ずつでも共学モデル校

を作り、研究・体制づくりの中心となるような形で、男子体育11単位の制限をはききせられるのではとその交渉をすすめようとしています。府教委は、'94年には共学4単位実現しますといひます。しかしこゝ一、二年で具体的にしたことといひば

●昨年22校調理室改造（実質は男子向け調理台・85cm高を3台ずつ入れ替えただけ）  
●今年も20数校、そのためのヒアリングあり  
●昨年度16人も(?)新採用  
●今年度家庭科教諭2人の学校9校増加

●校長会教育課程委員会の報告書、提言  
①複数科目を生徒の意志により選択

②工業高校は附則2を適用生活一般2単位  
③担当教員の確保は、教育課程、生徒数の推移を十分検討する

●'91年度中に学教審答申、'92年度中に府の方針を決定する、ということだす。

'92年度に府の方針決定なんて、上から方針がおりてくるのを待つだけの人にとつても遅すぎるのです。現在各校で校内委員会が発足動きはじめています。府の方針なんてものがどう出てくるかということも大切ですが、各校でどんな教育をしたいのかを問うことから教育課程論議を大切にし、その中で共学家庭科の理念と実態をしっかりと伝えて頑張るために、私たちの研究会は役割を果たさねばと考えて動いています。

## 男女共修家庭科 東京では

第四報

芦谷 薫

都議三井マリ子さんに都教育庁に対して次のような文書質問をしてもらいました。

一、一九九四年の家庭科の男女共修完全実施に必要な家庭科教員の増員数は

二、家庭科教員増のため一九九一年に三十一名増が必要と見積りながら、これができなかったのはなぜか

三、家庭科教員増について、予算がつくまでのプロセスを都民に分かりやすく具体的に説明せよ

四、「定数枠外」で「習熟度別学習指導」の項目と同じレベルで「家庭科共修に伴う家庭科教員増」を計画すべきでは

五、今年度は「習熟度別学習指導及び生徒指導の充実」から五名家庭科教員に回ったというがその通りか。また学校名と来年度もこの方法をとるのか

六、保健体育の都立高校全体の総授業時間数

と保健体育の教員数の一九九四年度の推定はどうか

七、保健体育の男女単位数の格差は一九九四年までに全都立高校で解消される予定か  
八、一九九四年までに、都教委は具体的に何をやるのか、また都教委は校長や教務担当者に何をしてもらうつもりか  
九、現場の家庭科教員から意見・要望をどのように何回すいあげたか、又教員の声が都教委に届くシステムは在るか

これに対して都教育長からは次のような回答がありました。（八月九日現在）

一、現時点では、学級数別学校数等が把握できないため確定した数として明示は困難。

今年度の学級数別学校数で積算すると一四〇人程度。今後の生徒減を勘案すると一〇〇人程度とも考えられる。

二、平成七年度での必要数を二〇〇人と推計してそのうち平成三年度で事前に採用しておきたい数の最大数として三十一名を積算。家庭科教員を増員するための定数ではない。その予定数が大きく下まわったのは、平成三年度から家庭科の男女必修に取り組み学校が少なかったのが主たる原因。

三、平成三年の家庭科教員増の要求は、平成六年度からの男女必修を円滑に実施するため。しかし、男女必修は、全体の定数枠内で実施すべきもの故、この要求は見送られた。  
四、国の第四次定数法改善計画（一九八〇、九二年）の中に「習熟度別学習指導及び生徒指導の充実」があり、都教委はそれにのっとって行っている。家庭科の男女必修については、国は全体の定数枠内で実施する予定であり、「定数枠」の増で計画することは困難。  
五、この五名は「習熟度別」から回ったのではなく、今年度、家庭科の男女必修のため取り組みをしても良いとする学校が五枚あったため、高等学校全体の教員定数の調整の中で配置した。来年度については調整中。

六、一と同理由で、推定困難  
七、平成六年度の第一学年から、必修の保健体育の単位数は男女共同数になり、全日制普通科の場合「体育」は九単位、「保健」は二単位で総計十一単位となる。

この文書質問の詳しい内容をお読みになりたい方、都家研、男女共学委員会の出した学校現場で使える一問一答集がほしい方は芦谷までご連絡ください。

（☎〇三—三三〇七・九六三七）



## 文部省のうごきから

梶谷 典子

### ●高校家庭科の施設・設備の新基準

中学校家庭科の施設・設備の新しい基準のことは夏号でお伝えしましたが、そのあとで発表された高等学校家庭科の新基準についておしらせします。

必修の家庭科が三科目になったのに伴い、「家庭一般・生活技術・生活一般共通」「生活技術」「生活一般」の三項に分けて示されています。

### ●共通の施設・設備

「共通」の施設の最初に「家庭総合実習室」が挙げられています。これは今までなかったものですが、新しくつくる学校では簡単にひとつで間に合わせることができるよう、ということなのでしょう。続いて「被服実習室」「食物実習室」があげられています。どちらも「生活一般」「生活技術」の場合は床面積が小さめになっています。

「共通」の設備の中で目新しいのは介護用のベッドと車いす。他に被服、食物、保育関係のおなじみの器具や標本が並んでいます。男子校も調理器具を当然揃えることになるわけですね。

この部分について八月の世話人会で議論になりました。「古い料理、裁縫のイメージのままではないか」「科学的に検討するという視点が入っていない」という批判のあと、「チマチマした家庭用品ばかりでなく、大量炊事用の設備が必要だ。これからは大量炊事はふえる。給食や企業が提供する大量炊事による食品をただ受け入れるのではなく批判もできるようになるには、大量炊事を体験することが必要だ」という意見が出ました。これに対して「すべての学校に備える必要があるか。全員が実際にやってみなければならぬのだろうか」という疑問も出され、結局意見は分れたままでした。

### ●新しい二科目の設備

この項は全部ご紹介します。（科目ごとの「施設」「家庭一般」だけのための「設備」はありません）

#### △生活技術▽

- ◆調理用Ⅱ圧力なべ、電磁調理器、ワンプロ
- ◆机・戸棚Ⅱ工具・材料庫、機械工作作業台、農具管理庫
- ◆模型・標本Ⅱ建築材料標本、家庭機器展開模型、家庭内環境展開模型
- ◆工作用Ⅱ電気工具一式、木工工具一式
- ◆電気測定Ⅱ交流電圧計、交流電流計、回路計、電圧調整器、絶縁抵抗器、電力計
- ◆電気実験用Ⅱ家庭用電気機器

夏号14ページ上段の昨年の家教連夏季集会参加者「約百名」は「四百名」の誤りでした。

- ◆栽培管理用Ⅱ家庭用園芸用具一式、運搬車、簡易温室

#### △生活一般▽

- ◆模型・標本、建築材料標本、インテリア標本

この「設備」から、皆さんはどんな授業を想像なさるでしょうか。

なお、昨年五月に文部省が行った調査によると、公私立の男子校、工業高校等で実習室などを新設する必要のある学校は六百八十九校だということです。

### ●新科目の研修

八月の世話人会では、六、七月に続いて文部省が行っている「家庭科新科目実技指導講座」への批判が出ました。実際にはコンピュータのことはやりやっているとすることで、新しく家庭科の中に入って来たものについて時間を多く使うのは当然とも言えるものの、「なぜ三科目になったのか」「なぜ男女必修になったのか」ということについての研修を必要ではないかと話し合いました。

世話人会では、文部省に対して、こうした研修についても強く要求していくつもりです。